



「夢ファームあらかわ・いちご園」



〈Topics〉

- ・協議会活動紹介
- ・特集「まちづくりトーク」
- ・あらかわ歴史さんぽ
- ・あらかわ伝言板



まちづくり広報誌

あらかわ

絆で結ばれ
自然と共に生きるまち あらかわ



『仕事を知ろう、地域を知ろう！公開特別講座』

～荒川高校連携事業～

平成 27 年 11 月 18 日(水) この取り組みは、地元の高校生に自分の進路や地域について考える機会にしてもらおうと始めたもので、3 回目となる今回は、大工や釣具店主、自動車会社による 3 講座を新設。1 年生 63 名が受講しました。生徒のみなさんには、教科書からは学ぶことのできない貴重な体験をしていただけたと思います。近い将来、彼らの若い力がこの地域で大いに発揮されることを願っています。

講師 & 講座紹介



- ①「マジックの楽しさ」 マジシャン 山田夢遊さん
- ②「清流荒川鮭講座」 柴崎釣具店主 金子顕一さん
- ③「〇〇すれば夢はかなう」 作業療法士・ハンドニスト整体院代表 内山慎さん
- ④「建築業体験講座」 齊藤建築 齊藤博さん
- ⑤「試乗車体験講座」 新潟日産自動車株式会社 総務部 大沢忠さん
- ⑥「ヘアカット体験講座」 第 63 代全国理容競技大会優勝・ヘアサロンコン 近和也さん
- ⑦「旬の食材で手作りランチ体験」 管理栄養士・福茶 cafe's キッチン 富田絵里子さん
- ⑧「おいしいパン作り体験」 御菓子の小島屋 渡辺淳さん
- ⑨「パティスリーのお仕事講座」 パティシエ・パティスリーマルヤ 遠山浩司さん



コミュニティビジネスセミナー 2015

地域づくりの担い手育成を目的に、昨年より開催しているセミナー。今年度は「コミュニティカフェ」にテーマを絞り、拠点施設のカフェの運営を担える人材の発掘と育成を目指しました。

① コミュニティカフェってなに？

2015. 12/13

地域づくりアドバイザーや実際にカフェを運営している方を講師に招き、コミュニティカフェの概念と様々な運営形態のほか、カフェの立ち上げや運営実務の基本などを学びました。



2016. 1/9

② コミュニティカフェにいったみよう

新潟市内にあるタイプの異なる 2 つのカフェを訪問し、実際の雰囲気を感じながら、組織の作り方や人を集める工夫など、経営者から実情や苦労話などをお聞きしました。



③ コミュニティカフェでつながろう 2016. 1/26



最終回は「顧客開拓ゲーム」を通して、どんなお客や協力者が必要か？どんなサービスがあったらお客に喜んでもらえるか？どうすれば協力者を巻き込んでいけるか？など、カフェオープン具体的なイメージを思い描きました。

育成部会としては、今後、本気でコミュニティビジネスを志す人材の発掘とバックアップ体制づくりに取り組んでいけたらと考えています。





まち協拠点施設（旧荒島保育園）
OPEN！
みなさん、ぜひご活用ください。




あらかわ地区まちづくり協議会
事業部会





◆使い方は自由自在♪『遊戯室&保育室』

保育園時代そのままの空間です。
趣味の会、読書会、朝活や打ち合わせなど、
使い方は自由です。遊技室は、踊りやバンド、
軽スポーツの練習場としても使えます♪



◆ピザ窯も使えるよ～『園庭』



園庭は子どもたちの遊び場として
ご自由にお使いください！
ピザ窯は、ピザだけでなくパンや
芋なども焼けます♪子ども会やイ
ベントなどで、ピザづくり体験は
いかがですか？
夏には、ピザ窯2号とバーベキュー
窯もお目見え予定！



◆憩いのカフェスペース『まちカフェ』

畳があった部屋がカフェルームに変身。カウ
ンター席とテーブル席併せて約30席。お茶
会やお食事会、結婚式の2次会やパーティー
会場としていかがですか。ピアノもあるので、
ミニコンサートも可能です♪



【施設利用料】※暫定料金、冷暖房費別途

	6：00～12：00	12：00～18：00	18：00～23：00
遊戯室	150 円	150 円	150 円
保育室	100 円	100 円	100 円
カフェ	500 円	500 円	500 円

ご予約・お問い合わせは…
あらかわ地区まちづくり協議会まで
TEL 62 - 3181




冒険遊び場 in 旧荒島保育園



2月11日祝🌞

冒険遊び場初の雪遊び♪青
空の下、子どもたちはソリ遊
び、かまくら作りやかんじき
体験にピザ作りと、思い思い
に楽しい1日を過ごしまし
た。



そして、この日の夜は、日
中に作った雪灯籠にロウソク
を灯したキャンドルナイトを
行いました。



広がる活動の輪♪

風かおる丘ハーブメイツあらかわ

花いっぱい作戦の活動も、季節の移ろいと共に、
活動の場を運動公園から旧荒島保育園に。
夏に収穫したラベンダーを使って、バスケットや
リース、石けんなどの作品作りを
行った後は、ハーブティーを飲みながら
おしゃべりをしたりと、収穫の楽しさを満喫♪





あらかわ地区まちづくり協議会の発足から間もなく5年。当協議会がこれまで取り組んできた事業には、一定の成果を挙げたものや発展に向かうものがある一方で、見直しや変化が求められているものがあります。そこで、事業の主催者側と参加者側の双方が参加する形で事業を振り返りながら、今後のまちづくりについて考えていこうと、「まちづくりトーク」を開催しました。読者のみなさんには、まち協メンバーや事業に参加した方々のご意見などをご覧いただき、荒川地区のまちづくりを考えるきっかけにいただけたら幸いです。
※誌面の都合上、本誌では抜粋したものを掲載します。

各部会事業の説明と振り返りから



横山

支援情報部会では、広報誌の発行、ホームページの運営、あらかわスイーツプロジェクト、あらかわごっこプロジェクト、あらかわフォトコンテスト、あらかわ地区及び協議会のPR活動などに取り組んできました。



須貝

今年度のスイーツコンテストでは、事業部会が運動公園で栽培したラベンダーを使ったスイーツを商品化しましたし、当店では最近もラベンダーオイルを使った新商品を開発しました。こういった取り組みはやっていておもしろいですし、他の事業とも連携し、できる限り地元の素材を使ったスイーツを作り、荒川地区をPRしていきたいと思っています。



川村

あらかわスイーツコンテストは地域に定着し、賑わいをもたらしているように感じますが、実際に集客はありましたか。また、あらかわスイーツの選考はお店がしているのでしょうか。



小島(亜)

あらかわスイーツは大きな反響があり、多くの集客がありました。選考に関しては、お店と協議会のメンバーが一緒に行っています。選ぶ作品が重なってしまう場合もありますが、得意、不得意な分野もありますので、最終的には菓子店同士が話し合いをして決定します。



横山

お店同士はライバルでもあるので、利害関係も発生しますが、みんなで話し合いをし、協力しながらうまくやって来られたと思います。



酒井

近年、荒川には大勢の釣り人がサケ釣りに来ていると聞きますが、何人位来ているのでしょうか。その人たちを対象に何か仕掛けられないでしょうか。釣りだけで終わらせず、あらかわスイーツや荒川の特産物を土産として買ってもらえるような仕組みを作れたら良いですね。



酒井

11月～12月の間、2,500人以上が荒川にサケ釣りに訪れています。例えばサケ釣り期間限定のランチメニューを提供するなど、飲食店や旅館等と連携した取り組みができないか、商工会としても模索しているところです。



小島(修)

釣り人は釣りをすることが一番の目的ですので、旅館や釣り具店など一部の人たちにしか恩恵が無いように感じます。もし荒川地区に有名な土産物や名所があれば、「今度来るときは観光に来よう！」「お土産にはあれを買って帰ろう」ということになると思います。せっかく大勢の人たちが来ているのですから、このチャンスを活かしたいものですね。



酒井

事業部会では、運動公園有効活用プロジェクトとして冒険遊び場づくり、花いっぱい作戦のほか、まちづくり協議会活動拠点施設づくりなどに取り組んでいます。



酒井

山田さんは、冒険遊び場づくりで旧荒島保育園にピザ窯を作ったり、ハーブメイツあらかわのメンバーとして活動しているようですね。



山田

はい。11月に開催したピザ窯の披露会には親子連れなど約200人が集まりました。ピザのほか、うどんや焼き芋も作りましたが、大盛況でした。またハーブメイツあらかわでは、4月～11月の間、月2回、草取りをしていますし、他地区のラベンダー畑に研修に行ったり、食事をしてチームワークを良くすることにも努めています。他にも商工祭や文化祭の出店準備など、頻繁に集まって活動しています。



小島(修)

運動公園を散歩していると、ラベンダーを見に来ている人をよく見かけます。市外からも多くの人々が来ているようですが、アスレチック広場の方に駐車場があることを知らずに、下の駐車場に車を停めて歩いていく人もいます。やはり、駐車場とラベンダー畑の案内看板は必要かと思います。



須貝

冒険遊び場についてですが、食べる場所があれば、なお良いという話を聞きます。焼きそばなどの簡単な料理でも売ってれば、もっと気楽に行けると思います。弁当を作る事などがネックになっているのかなと思います。



酒井

運動公園内で火を使える場所は限られますし、営業となると衛生面や保健所の許可などが問題です。



川村

例えば、参加費を取って、グループで食べ物を作って食べたりするような方法であれば可能ではないでしょうか。



山田

ピザは同様の手法で実施しています。参加者からは、参加費として材料代を負担してもらっています。



酒井

旧荒島保育園の活用方法についてですが、特にカフェスペースについて何か良いアイデアはないでしょうか。



小島(亜)

運動公園で冒険遊び場を開催し、その後、旧荒島保育園に流れて食事するような企画にすれば良いのではないのでしょうか。旧荒島保育園が何でもある場所、何でもできる場所になったらおもしろいですね。



小島(修)

冬の運動公園にはウサギやカモシカ、サルなどの野生動物の足跡が見られますので、運動公園でかんじきトレッキングのようなイベントを企画し、その後に旧荒島保育園で食事会といったような取り組みは良いと思います。



川村

例えばピザと焼きそばだけであっても、みんなで食べれば楽しいでしょうね。また、旧荒島保育園は駐車場が狭いので、大勢が集まるイベントや冒険遊び場の常設を考慮すると、その対策も必要かと思います。



川村

育成部会では、あらかわみらいファンド助成事業、荒川高校との協働事業「仕事を知らう！地域を知らう！公開特別講座」、コミュニティビジネス育成セミナー、高坪山周辺活動団体懇談会などに取り組んでいます。



鈴木

育成部会は、みらいファンドやコミュニティビジネスセミナーなど、種まき事業に取り組まれています、実際に芽は出てきたのでしょうか。



川村

荒島わらび山開発クラブさんがわらび園を正式に開園できれば、それが一つの大きな成果かと思います。詳しくは小島(修)さんからお願いします。



小島(修)

みらいファンドの助成を受け、わらび園や周辺の林道を整備するための道具を揃えました。助成3年目でスーパーにわらびを卸し、いくらかの現金収入を得ることができましたし、わらび園の面積も4ヘクタールまで増やしました。助成が無くなるこれからは、より自立を意識した活動をしていかなければならないと思います。最初は幼馴染や同級生が集まり、楽しみながら遊び感覚で始めたことでしたが、マスコミにも大きく取り上げられ、大変な反響がありました。ぜひとも今年にはわらび園の開園を成功させたいと思います。



川村

マスコミに取り上げられた後、新潟方面の方からの問い合わせが多かったようです。山形県の小国町や高根地区のわらび園では、5月下旬頃から開園しますが、荒島のわらび園は4月下旬～5月上旬頃に開園できますので、それが強みなのだと思います。来園していただいたお客様にはわらびだけでなく、地元のお菓子や特産品を宣伝することもできると思います。



小島(修)

スーパーなどに卸すには、朝早くから急斜面で収穫作業をし、選別、袋詰めをしなければなりませんので、お客様に来てもらって収穫してもらえれば一番良いです。しかし、一度に大勢のお客様が来るとわらびも採り尽くされてしまいますし、お客様の対応もできないだろうと心配しています。今後は受入れの体制整備をいかに進められるかが重要だと思います。



鈴木

わらび園付近はフキノトウやタラの芽などの山菜が豊富だと思いますが、それらを活用した事業展開などは考えていませんか。



小島(修)

私たちのグループでは、今のところ他の山菜の活用については考えていませんが、以前に開催された高坪山周辺活動団体等懇談会の場では、山麓で野菜やそばなどを栽培している人々と協力し、一緒に農産物を販売しようという話になりました。作物毎に旬が違うため難しいということでは実現できませんでしたが、生ものは漬物にしたり、製品化することで一緒に販売することは可能だと思います。

また、最近ではわらび園に勝手に入って山菜を採る人も多く、何度かパトロールを実施しました。一方で、林道を整備しレンギョウを植栽したことで、不法投棄は大幅に減少しました。



酒井

旧荒島保育園でわらびやそば、ラベンダーやスイーツなど、いろいろな素材を使った取り組みが出来るかもしれませんね。

今後のまちづくりの展望について



鈴木

最後に、今後のまちづくりの展望について、みなさんからご意見をお聞きたいと思います。



須貝

今、流行している「食の陣」のようなイベントが荒川地区で行われたら良いと思います。荒川地区は村上市、関川村、胎内市の中心に位置していますので、それぞれの地区の食を集めて競い合うような形で行えば、楽しいだろうし盛り上がると思います



小島(亜)

単体では既にいろいろな事業やイベントが行われていますが、マンネリ化したり、同じような内容のものもあります。みんなが協力し、連携することで、より魅力的な取り組みになっていくのではないのでしょうか。



小島(修)

先程もお話しましたが、運動公園は冬の活用を考えてほしいと思います。また、わらび園は今年こそは一般開放しますし、できる範囲で面積拡大と林道沿線のレンギョウ植栽も継続していきたいと考えています。そのためには若手の確保が重要になってくると思います。現在、選別やバック詰め作業を頼んでいる集落の女性にはパート代を支払っていますので、せめてその程度は支払えるようになり、人材を確保していきたいと思います。



山田

せっかく旧荒島保育園を良くしていただきましたので、カフェスペースをもっと有効活用していけたらと思います。また、ここで行われる様々な取り組みが成功し、その影響が地域に波及していったら素晴らしいと思います。



横山

長時間に渡りお疲れ様でした。本日は、みなさんから様々なご意見を聞くことができ、今後の活動を考える上で良い機会となりました。各部会ともに人材不足や活動の自立など様々な課題を抱えていると思いますが、まちづくり活動を継続し、活動の輪を広げていくことが、より良いあらかわ地区の構築に繋がるものと信じております。本日はみなさんありがとうございました。

〈参加者紹介〉

- ◆横山卓哉…あらかわ地区まちづくり協議会 支援・情報部会 部会長
- ◆川村敏晴…あらかわ地区まちづくり協議会 育成部会 部会長
- ◆酒井幸子…あらかわ地区まちづくり協議会 事業部会 副部会長
- ◆須貝博之…お菓子屋さんニコ店主、あらかわスイーツプロジェクト参加
- ◆小島亜矢子…御菓子の小島屋勤務、あらかわスイーツプロジェクト参加
- ◆小島修…荒島わらび山開発クラブ所属、あらかわみらいファンド申請団体
- ◆山田久美子…風かおる丘ハーブメイツあらかわ所属

※ 司会：鈴木清博（支援・情報部会）

撮影：小野剛志（支援・情報部会）

記録：田島（まち協事務局）

あらかわ歴史さんぽ

～集落地名篇 其ノ貳～

前回に引き続き、地名の由来を中心とした「集落地名篇」をお送りいたします。
※荒川町教育委員会編『あらかわ歴史散歩』（1991）より引用（pp.167-176）

田島

大津の小字名に田島というところがあります。その地区を中心に発展した集落ですので、田島区と呼ばれるようになったと思います。昭和三十八年頃、大津から独立して、新しい区になりました。

佐々木

「サ」のつく地名は、稲作の灌漑用水と関係が深いといわれています。私たちは今でも、五月の雨をサミダレ、田植をする女の人をサオトメ、田植えをサツキと呼んだり、サナブリという言葉もあります。しかし佐々木の地名の由来はわかっていません。永禄十一年（1568）上杉謙信が本庄繁長を攻めた際の資料に佐々木の地名が見られますので、五百年程前から小さい集落があったことは明かです。佐々木が本格的開発に入ったのは寛永年間の初期（約三百六十年程前）、安角村（現関川村）の金子善吉によるものです。当時、江戸時代から庄内方面への往還（国道）がこの村の中央を貫通していましたので、交通の要所でもありました。

松山 (荒川松山)

終戦の頃まで、旧国道筋には、枝ぶりも見事な老松がならんでいました。そんなことから、あのあたりを通称松山と呼んでいたのです。戦後住宅地として発展し、昭和三十八年頃、独立して、新しい区になりました。

前坪団地

藤沢の小字名に前坪というのがあります。田圃でしたがその後埋め立てられ住宅地として発展し、昭和四十八年頃独立して、新しい区になりました。



堤下団地

堤下は坂町の小字名の堤下に由来するものと思います。昭和五十年頃、独立して、新しい区になりました。

金屋

金屋の起源については詳らかではありません。金屋とはおそらく精錬された金属を取り扱う人たちの通り名ではないかと思われます。昔は木工にたずさわる人たちを木地屋、金属加工にたずさわる人を、金子とか金屋と呼んでいたのです。

また、福田付近に大きな市場で十日町というところがありました。この市場は近郷の中心地で多くの金品が動いたので町名を金屋と変えたい。

しかし水原在に金屋という地名があるので「金屋」にしたらしいともいわれています。文禄頃の瀬波郡絵図には「かなや村」と見えています。なお昔、金屋は用水の便が悪いため田が少なく、畑は田の三倍（万治二年の頃）もあったとの資料もあります。

小字名の馬場とは、天喜年中（1056）八幡太郎義家が奥州下向のみぎり、この地に陣をしき、人馬を調練したところといわれています。

鳥屋

鳥屋の地名の由来も、いつの頃から鳥屋に人々が居住したかも不詳です。慶長二年瀬波郡絵図にも「とりや村」が見えることから古くからあった村と思われます。かつては標高四～五メートルの荒川の中島であったとの説もあります。田・畑も少なく農間には鮭漁で生活していましたが、川中に杭をたて囲いをつくって川を締め切る持網漁法でしたので、荒川上流の村々から材木を流すに支障があるとの訴えがおこされている資料もあります。

大津

津は、渡し場・港・舟着場を指すことばです。大津とはかなり大きな渡し場、舟着場であったことに由来すると思われます。享保二年（1717）の村絵図によれば、あいぜ・長池・久助池に続いて荒川本流に流く古川がかかれています。古くは入江・船着場であったのでしょうか。なお、字、高屋敷の館跡は、荒川保地頭河村氏の一族、大津氏の館跡と伝えられています。

中倉

中倉村についても地名の由来は詳らかではありません。瀬波郡絵図には「色部分中倉村」縄高（生産高）一八四石五斗一升四合、本納（年貢高）八石九斗、家（本百姓）四軒とあります。天保三年（1832）の村々様子大概書には、田三町余、畑三町四反余、家数一八、人数一一八とあります。

なお文化十一年（1814）の蒲原・岩船郡一揆の際、中倉村の人たちは徒党に加わず、過料（過失の償いの金銭）も科せられなかったそうです。

名割

名割とは「土地共存割替班給」の制度から出たものと思われます。その起源は共同開墾によるもので、各人の利権獲得に不公平が出ないよう、全開墾地を共同管理とし、これを参加者全数に割当て、一軒前の耕作分を定めたのです。しかし同一地籍を、同一者に長年耕作させますと、土質の優劣で、また不公平となりますので、再び抽選し直して耕作者を定めていました。それが「割」で、名はその一軒分を指したもので誰々に割当てられた田圃という意味だと思います。

中野

中野は今から三百四十年程前、米沢在、中野村時田地区から移住してきた四名によって開発されたもので、はじめは四高野村と呼ばれていましたが、承応年間（1652～55）に名割新村と改称されたといわれます。元禄郷帳には名割村枝郷と記されています。明治十九年八月、中埜新村と合併して中野村となりました。

長政

享保年間、韋駄天山入出野は、北蒲原郡早道場町、紀伊国屋久左衛門によって紀伊国新田村が、宮川四郎兵衛長政によって長政新田村が、その後、文政年間に関川村 渡辺三左衛門によって渡辺新田が開発されました。長政新田は明治八年、紀伊国・渡辺新田と合併し渡辺三新田と改称されましたが、昭和六年、長政と改称致しました。「長政」とは宮川四郎兵衛長政の諱（生前の徳行によって死後に贈られた称号）によるものと思います。



南新保 (両新)

大津の高屋敷に居住した渡辺氏によって開発され、正平十六年（1361）当地に移住したといわれています。昔、天皇の直轄地は「保」といいましたが、新しい天皇直轄地ということで「新保」と呼ばれたとの説もあります。明治十二年、南新保と改称されました。

新光寺 (両新)

その昔、新光寺という寺のあったことに由来します。乙宝寺の分寺、または隠居寺ともいわれています。乙宝寺は貞観五年（863）の大津波で崩壊し一時期三島郡へ移ったといわれますが、その時、新光寺も崩壊したのでしょうか。その後乙宝寺は現在地に移り、新光寺も再建されましたが、いつの頃か、火災か何かの原因で廃寺となったといわれています。

荒屋

荒屋についても地名の由来を示す資料は残されていませんが、荒屋の西方を北流する旧胎内川の右岸、標高三～四メートルの沖積地にあり、文禄頃（1592～96）の瀬波郡絵図には、色部分あらや村とみえます。

天保三年（1832）の村々様子大概書によれば、用水は三カ所の湧泉を用い、農間には男は川獺稼をするとあります。また荒屋には、古くから屋根のかかった珍しい庚申様が祀られています。

尚、俗説ですが、対岸地藏堂村の耕地がこの地にあり、村の人々は舟で渡ってきて耕作をしていました。そのため農具を収納しておくための小屋（あばらや）を建てていました。そんなことから「あばらや」のあるところという意味で荒屋と呼ばれるようになったといわれています。

海老江

昔、胎内川は海老江の方に流れていて、胎内川と荒川にはさまれていました。江というのは広い川をあらわし、広い川の所に、海老に似た形をした地形があったので、海老江と名づけたということです。一説には、海老がたくさんとれたのでともいわれています。海老江は古来より舟着場として発達したのです。湊としては、幕府領になって以後栄えたものと思われます。また湊口での鮭漁をめぐる争いや、漁法をめぐる争いが、上流の村々としばしば繰り返されたとの記録もあります。

正徳三年（1713）上野（群馬県）館林藩領となり、翌年陣屋が置けました。

海老江陣屋は、館林城主が、当地方の領主であった正徳三年（1713）から享保十四年（1729）までの十六年間置かれたものです。陣屋には、代官が派遣され、蒲原岩船郡中二万石を支配していました。

金屋大雄寺には代官の義父、篠坂武右エ門の墓もありますし、陣屋山には小川清治氏の手による「陣屋跡」の碑があります。

—引用ここまで—

次回の歴史さんぽは、「**坂町駅前編**」を予定しております。

坂町駅前の昔の写真をお持ちの方がいらっしゃいましたら、事務局までお貸しいただければ幸いです。



あなたの
「あらかわ愛」
を募集します



風景や人物、行事やお祭り、まちづくり活動など、様々な視点から、
あなた自身の感じるあらかわ地区の魅力を写真にしてご応募ください。

2016年9月30日まで

詳しくはコンテストの応募要綱をご覧ください。要綱&応募用紙は、
まちづくり協議会のホームページからダウンロードいただくか、事務局までお問合せ下さい

【応募・お問い合わせ先】

あらかわフォトコン事務局 〒959-3192 村上市山口 444 TEL/FAX 62-3181

あらかわ伝言板

春を感じて♪「高坪山 山開き」

- ◆日時…4月10日(日)
 - ・集合8:30 ・開会式、安全祈願祭9:00～
 - ・登山開始9:30～
- ◆場所…高坪山登山者駐車場
- ◆お問い合わせ…荒川ワンダーフォーゲル坂野 ☎62-3038

あらかわみらいファント助成事業申請募集中!

みらいファントを活用し、まちづくりに挑戦してみませんか!
詳しくは、まちづくり協議会事務局 (TEL/FAX 62-3181) まで、お問い合わせください
※まち協ホームページに応募要綱等を掲載しています

平成28年度 あらかわ地区まちづくり協議会 総会

- ◆日時…4月27日(木) 19:00～
- ◆会場…荒川地区公民館 大ホール

いつまでもきれいな川を!「荒川クリーン作戦」

- ◆日時…4月29日(金・祝) 9:00～10:30
- ◆場所…荒川橋上流(左岸)
- ◆持ち物…長靴、軍手
- ◆お問い合わせ…清流荒川を考える流域ワークショップ ☎62-1767

第8回清流あらかわさくらつつみウォーク

- ◆日時…5月14日(土)
 - ・受付 8:00～
 - ・出発式 9:00～ ・スタート 9:20～
- ◆集合場所 荒川地区公民館
- ◆参加費 一般300円 ※高校生以下無料
- ◆内 容 荒川堤防道路や水辺の染校などを歩きます
※5・10・15・20kmの4コースあり
- ◆お申込み 4月4日(月)～4月30日(土)の間に、電話かファクス
もしくはEメールで、下記までお申し込みください
- ◆お問い合わせ…サンスマイルあらかわ
TEL 62-3248 FAX 62-3249
E-mail sunsmile-arakawa@snow.ocn.ne.jp

編集後記

表紙の撮影で、長政にある「夢ファームあらかわ・いちご園」にお邪魔しました。
こちらの施設では、いちごの摘み取り体験ができ、もぎたてを味わうことができます。ハウスの中は
いちごの甘い香りが漂い、ミツバチも楽しそうに飛んでいます♪
早春の荒川地区いち押し行楽スポットです。今度のお休みは、ご家族や友人を誘って、いちご狩りに
行ってみてはいかがでしょうか たく ※夢ファームあらかわTEL62-5338

まちづくり協議会では、
あらかわ地区のいろんな話題を募集しています!

お気軽に、TEL・FAX 0254-62-3181
Mail love-arakawa@bz04.plala.or.jp
URL : <http://www.love-arakawa.bz-service.net/>